

種の概要

東北から四国、九州に分布するが、ウゼンドブシジミ *S. inutile* Pilsbry, 1901、エゾドブシジミ *S. miyadji* Mori, 1933、オキナワドブシジミ *S. okinawaense* Mori, 1937との分類学的検討は今後の課題である。流れの緩やかな水路や池沼、湿地などの泥底に生息する。殻長10mm前後になる。殻は薄く、殻表面は白または灰黄色の半透明で、きめ細かな成長脈があり光沢を有する。濃色の個体では周縁部が白または乳白色に細く縁取られることがある。卵胎生で数十個体の楕円形の稚貝(殻長1.6~1.8mm)を鰓で育て産出する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△				○

県内分布

神戸市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市、加古川市、西脇市、三木市、小野市、加西市、姫路市、神河町、市川町、たつの市、宍粟市、豊岡市、養父市、朝来市、新温泉町、篠山市、丹波市、洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

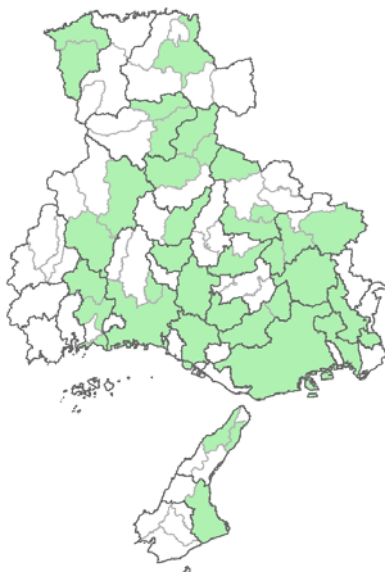
新規追加種。県内に広く分布するが、各市町ごとの既知産地は多くない。再確認できる場所が少なく、各産地においては生息範囲が狭く、個体数も少ないなど生息状況は決して安定的ではないと考えられる。本県においてもウゼンドブシジミに同定されるものが含まれるが、現状では同種と判断している。

保護上の留意点

生息環境は特定できるものではないが、還元性の低い止水や緩流部の泥底に生息することから、川のワンド、流れの緩やかな泥・砂泥底の水路、汚濁程度の低いため池の保全が望まれる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修